



じつきょう

商業教育資料 No.95 通巻383号

知られざる商業教育の底力 ～商業高校卒業生の活躍実績～

全国商業高等学校長協会 公益財団法人全国商業高等学校協会
理事長 戸田 勝昭 (東京都立第一商業高等学校長)

はじめに

全国の商業高等学校では、本年度より学年進行で実施される新高等学校学習指導要領を踏まえた授業を展開していることと思います。

東京都の商業関係校長連絡会でも「関東地区商業関係高等学校研究協議会」に向けて研究協議題、聴取事項を提案し協議を進めています。

①研究協議題(抜粋)○新教育課程編成においてどのような特色を持たせたか○新教育課程における商業としての「育てるべき生徒像」、各学校の特色、商業科目に対応した全商の検定資格○企業の期待する生徒像および検定資格等

②聴取事項(抜粋)○各都県(市)教育委員会の商業教育への理解度○中学生・保護者から見た商業高校の置かれた立場、商業高校の強み、弱み、将来の見込み○商業高校から大学進学することの有利性○入社後、本当に有効活用できる資格検定は何か

全国の先生方に置かれましても、上記抜粋課題に対して、私たちと同様に日々悩み、考え、生徒のためにより良き教育活動を実践していることと思います。

また、第2期教育基本振興計画～4のビジョン(基本的方向性)、8のミッション(成果目標)、30のアクション(基本施策)～、が答申されました。初等中等教育分科会高等学校教育部会の審議の経過について～高校教育の質保証に向けた学習状況の評価等に関する考え方～、も公表されています。

国や都道府県教育委員会の動向から目が離せない状況が続くことが想定されます。本年度は、それらを踏まえ学校経営に視点を当てて、全国の先生方と協議していきたいと考えています。

はじめに、商業教育の歴史的意義について簡単に触れたいと思います。次に、全商の主な施策に卒業生の活躍事例を取り入れながら、私自身の商業教育に対する熱き思いと考えを述べたいと思います。

1. 商業教育 130 周年

明年は明治17年の「商業学校通則」制定を起点として発足して以来、丁度130周年の佳節を迎えることとなりました。本記念式典は、商業教育100周年記念式典の折には、常陸宮殿下並びに同妃殿下のご台臨を仰ぎ、国政繁忙の中、文部大臣をはじめと

も く じ

知られざる商業教育の底力	1	都立専門高校技能スタンダードの取り組み	14
激変環境下の会計を理解するための特別講義 第2回	5	友情販売プロジェクト	16
思考力・判断力・表現力をはぐくむ授業への改善	10	ITパスポート試験受験に向けた取り組み	18

してご事多い貴賓のご臨場を賜り、厳粛に挙行されました伝統かつ実績のある式典でございます。

当協会といたしましては130周年を記念して各種の施策を計画しています。平成26年5月19日(月)に行われます記念式典、記念講演、功労者表彰等につきましては、着々とその準備を進めています。

記念誌につきましても基本プロットが内定しつつあります。今後、ブロック代表理事の先生を中心に各都道府県の先生方に記念誌執筆等をお願いすることが多いかと存じますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

また、競技大会につきましては、珠算・電卓、ワープロ、簿記、英語、情報処理、生徒商業研究それぞれが130周年記念大会ということで準備される予定です。同様に商研大会につきましても同様の準備に入りつつあります。その詳細につきましては、全国商業校長研究協議会秋季大会や各種全商主催検定研究協議会等においてお知らせしたいと思います。

2. 就職対策委員会

高校生の就職問題は、五大新聞の1面に掲載されるほど全国的に大きな社会問題となっています。昨年度は、一昨年度と比較してわずかではありますが就職内定状況が改善されました。しかし、高校生の就職が厳しい状況に変わりはありません。

さて、平成21年度に「就職問題連絡協議会」を立ち上げて以来、高校生を採用している企業や関係団体の人事担当者を全商協会にお招きして意見交換会をもち、全国の商業関係高校の卒業生の採用について応援する体制を構築して5年目になります。経済3団体(経済団体連合会、日本商工会議所、中小企業団体中央会)及び民間企業の人事担当者の方々からは、様々なご支援、ご協力をいただきました。今日のデフレ不況下の中で、実際に高校卒業者の就職者採用に一方ならぬ様々な対応をして頂きました。

特に、平成23年3月11日の東日本大震災の折には率先して経済産業省、厚生労働省、文部科学省に何度も働きをかけていただきまして、被災が大きかった3県の高校卒業生を優先的に採用していただき紙面をお借りして心より感謝申し上げます。

今年度も、経済関係団体や企業の代表者をお招きして、連絡協議会を複数回開催する予定です。一人でも多くの就職内定者の実現を願って全力で取り組

む所存です。

一昨年度、昨年度と全国的に就職戦線は、厳しい状況が続いておりますが、今年度は、わずかではあります。心地よい風向きの方向に改善されつつあります。「10年振りに高校卒求人を開きました」「はじめて高校卒求人をお願いにきました」という企業担当者の来校もあり、高校卒求人数は増えつつあります。

全国商業校長会研究協議会でお話したことを一部紹介させていただきます。私が、教諭時代に教えた生徒が東京都職員となり、今年度から都立高校の経営企画室長(事務長)に昇任しました。彼女は、異例の若さでの昇進です。また、本庁水道局の係長級や会計管理局の係長級の職員に昇進した彼女たちも同級生です。さらに、2歳上の先輩は、都立高校推薦入学選抜制度の大幅な改革を執行責任者として教育庁で辣腕を振るいました。彼女も同年齢のときに抜擢され2年間で実績を築き、現在は都議会対応を任されています。4名とも大学に進学していません。皆さまもご存知のとおり、東京都の職員は、難関大学、大学院卒業生が数多く入都しています。そうした中での快挙なのです。

商業高校卒の学歴で、ホテルの支配人やテレビ局の理事をはじめ、水産会社の監査役、繊維会社の人事部長、印刷会社の工場長、建設会社の本社部長、スーパーマーケットの支店長等、数多くの方々が生産業界で実績を上げています。

昔のOBだけでなく、若手の商業高校卒業生も頑張っています。A社に入社した21歳の卒業生は、アルバイト約40名を指揮して、千葉県全域の700店舗のコンビニエンス・ストアを任せられ、雑誌の配送やマーケティングを担当して、若手の有望株として期待されています。B社に入社した20歳の卒業生は、同期入社の大学卒、専門学校卒、高校卒の中で接客実績はNo.1だそうです。C社に入社した18歳の卒業生は、社内研修で評価され、男子社員40名の中に女子社員1名という部署に配属され、営業事務を補佐して活躍しています。

私たち商業関係高等学校に勤務する教員全員が再認識しなければいけないことは、中学時代に活躍する機会が少ない生徒であっても将来、無限大に伸びるということです。その上で、全国の先生方をお願いしたいことは、同高等学校の卒業生で活躍している方を生徒、保護者、地域、特に教育行政や企業関

係者の方々にお知らせいただきたいのです。全校集会等で紹介して頂き、在籍している生徒にも将来への夢をもたせてくださればと思います。

高卒求人数増加の課題としては、「高卒採用のよさ」を理解できない企業にどう説得して求人開拓を図っていくのか、という大きな問題が依然として残されています。先生方の英知をお借りし、ご協力のもと求人数増に繋げて行きたいと考えています。就職対策委員会等で47都道府県の商業関係高校の卒業生の活躍をアンケート調査し、各県別に一覧表にして冊子として提案したいと考えています。

3. 大学入試対策委員会

平成23年度より「高大接続連絡協議会」を立ち上げて以来、商業関係高校生の全商推薦合格者枠のいっそうの拡大を図ってまいりました。

同協議会では、全商推薦入学生の報告を各大学から受けています。推薦入学生の成績をはじめとした活躍状況や動向等、嬉しい報告を受けると正直ほっとします。増員枠を図っていただける大学も増加しています。全商推薦入学者枠は確実に広まりつつあります。皆様の期待に応えながら同推薦枠の拡大に一層の努力を重ねて行きたいと考えています。

残念ながら、よい報告ばかりではございません。数校の大学からは、「本学の期待するレベルに十分に達していない」との強い意見もいただいております。全商推薦入学者制度の在り方を含め様々な課題や要望等も承っております。一例を挙げれば「将来公認会計士を目指します」等、推薦入学時の面接での受け答えと一致していない。また、大学に入学すること自体が目的であり、将来への展望を見出せない者等、一部の入学者とはいえ中途退学者や留年者が存在することも事実です。

今年度は、2年連続定数減を申し出ている大学もあり、大学からの入学生に対する要望・期待等を考慮して改善すべき状況などを検討していきたいと考えています。商業校長会、全商商業研究大会、全商広報で状況等をご報告させていただく予定です。

本協議会は、全国商業関係高校生の大学入学及びより良き大学生活についても応援するものです。全商推薦入学者に限ることなく、大学入学後は本人任せにせず、1年に1度は、母校に來校させてアドバイス等の追指導を行わなければならない時期に突入しているのかもしれない。各高校でも追指導体制

を構築して卒業生の成長を支援することが重要だと思います。

以前にも様々な機会で紹介させて頂きましたが、商業高校を経て大学を卒業し、総理大臣、国会議員、大学の総長、教育委員会の委員長、大手企業の社長等、日本中の各界で活躍している方々は、数多く存在しています。また、20歳代の直近の商業関係高等学校卒業生の活躍を一例に挙げさせていただきますと、私立の有名中学一貫校に進学した友人と大学で再会したある生徒は、大学では友人を上回る成績を収め、超難関の大手銀行に就職しています。その他の生徒も、大手ゼネコン・化粧品・ガス・証券会社・監査法人等に入社して、少しずつ実績を上げ、部署内での信頼を築きつつあると報告を受けています。

商業関係高等学校卒業生が商業高校を経て大学に進学してよかった、できれば、商業高校を経て大学を卒業したから今がある、と熱く語れる企業の第一線で活躍されているOBや地元で社会貢献されている卒業生を生徒、保護者、地域、特に教育行政や企業関係者にお知らせして下さると幸いです。

さて、中央教育審議会高大接続特別部会の諮問理由説明において、「グローバル化、情報化、少子高齢化など社会構造が大きく変化し、先を見通すことの難しい時代にあっては、①生涯を通じ不断に主体的に学び考える力②予想外の事態を自らの力で乗り越えることのできる力③グローバル化に対応し活力ある社会づくりに貢献することのできる力などの育成が特に重要となる。このような力は、学校教育においては、各学校段階における質の高い教育と相互の有機的な連携を通じて育むべきものであり、そのために多くの関係者が努力を重ねている。(以下略)」と謳われています。

今年度は、個別に各大学入学者選抜代表者と会合を積極的に持って、様々な要望や意見等を集約して課題等の対応に当たる予定です。

特に商業教育の質保証と向上とをより一層図るために、商業関係高等学校卒業生が、上記の3つの力を大学段階においてもしっかりと育むことができるように意見交換をもちたいと考えています。

4. 商業教育のPR

昭和60年、全商刊行の100周年記念「商業教育百年史」上下巻に目を通すうちに、第一部「商業教

育の変遷と現状」に強く引きつけられました。明治時代の学科課程表（教育課程表）を注意深く探ると、数学は、筆算と珠算に分けられていました。商業科目の一部とはいえ、共通教科の中に組み込まれていたことについて新鮮な驚きを覚えました。大正や昭和（戦前まで）に入っても同様です。

今日、高等学校に在籍するすべての生徒が共通教科を学習する中で商業教育の香りを学んでいます。上記の数学を参考にすると「現代社会」「家庭総合」（マーケティング、商品と流通、商業法規）「政治経済」（国際ビジネス）「情報」（情報処理）等が挙げられます。このようにいくら時代が変化しようとも、商業教育の一部の内容は、全ての高校生が学ぶべきものとして現在に至っています。

しかし、総会や役員会でも話題になっておりますが、少子化の影響で、各都道府県では高校の統廃合は減少化傾向にありますがいまだに進行しています。減少傾向にあるとはいえ、全商協会の平成24年度の会員校数は1,439校、生徒数は323,498人を数え、高校教育会に大きな影響力と役割を担っています。

今、商業教育に学ぶメリット等を熱く語り、一層呼びかけていけば減少傾向に歯止めがかかるのではないかと考えています。商業教育は、商業高校のすばらしさ、特に規範意識やマナー教育、勤労観・職業観の育成等、多くのノウハウを持っています。

商業教育の輝かしい伝統、不易の部分を踏まえた上で、社会の変化や動向、流行を見詰めて教育課程を編成していくことが肝要です。その上で、商業高校の復権を目指す第一歩として、今の時代にあった商業教育の授業の内容と方法の充実、資格取得等のメリット、卒業生の活躍事例などを徹底的にPRすれば商業教育の復権はあると確信しています。

商業高校に入学した生徒の目的の第一は、資格取得を生かして就職する。または、資格取得を生かして大学に進学した後就職する、と答える生徒が圧倒的に多いことは過去の調査で明示されています。

全国各商業高校の学校説明会等で商業高校は「ビジネスと英語を中心に学ぶ学校です。数多くの資格を取得することができます」と説明すると、生徒と保護者は必ずといっていいほど満足した表情を浮かべます。そして、今日は「学校説明会に参加してよかった。ありがとうございます」と先生方に挨拶して帰宅する生徒、保護者がほとんどです。

しかし、実際には商業高校受験者増に結びついて

いません。残念なことに、商業高校の教育課程、商業科目の内容、資格取得の実績、商業高校卒業生の進路実績等は、中学校の校長先生をはじめとして一部の先生や学習塾の先生を除いて、理解されておられません。校長先生は校長先生のレベルで、先生は先生のレベルで、市区町村の校長会、先生方の中高連絡協議会等に訪問して「県内の商業高校の底力」をPRすべきなのではないでしょうか。

私たちは、商業教育を通じて生徒を成長させている自負があります。全国の先生方のご協力のもと、全商Webや全商広報、各種検定試験等をはじめ様々なものを改善し、より一層商業教育の内容と方法を充実させ、商業教育のPRに邁進する所存です。

おわりに

商業高校での教育は、中学校教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、共通教科教育と商業教育を施すことを目的としています。職業教育の中核をなす商業の専門教育にあっては、商業高校卒業生の進路を踏まえた商業教育の充実を図ることが重要です。私は、いつも「生徒が27歳になったときの姿を考えた指導を」と呼びかけ続けてきました。近年は、商業高校生も約6割が進学します。商業高校3年、大学4年、官公庁・企業などに就職した5年後の時点で、生徒が各自の能力を生かし、生き生きと社会で生活するためには、商業高校在学中の3年間にどのような力を身に付けさせるべきか。「スペシャリストの感覚を備えた総合的な人間力」だと私は生徒・教職員をはじめ全国商業校長会等で語り続けてきました。

全国の各商業高校におかれましては、自校の①新教育課程編成においてどのような特色を持たせたか。②新教育課程における商業としての「育てるべき生徒像」をどのように描くのか。③各都県（市）教育委員会の商業教育への理解度と支援度を大きく得られているのか等、常に改善し続けなければいけない課題は山積しています。

グローバル化、情報化、少子高齢化など社会構造が大きく変化し、先を見通すことの難しい時代にある中で、皆様方の商業教育への熱い思いや英知を全商協会の諸事業に結集して、商業教育の発展・充実のために懸命に努めてまいる所存です。つきましては、校長先生をはじめ、諸先生方の忌憚のないご提言、ご指導、ご協力を重ねてお願い申し上げます。